

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第581号 平成25年7月23日

高校生の町内会役員

札幌市の「北野まきば町内会」では、今年の4月、飯島優香さんという17歳の女子高校生が役員に就任し話題を呼びました。

飯島さんの役どころは「青少年育成副部長」という事で、年間10件近い行事の運営や広報誌に「ユウカの目」というコラムの執筆が担当です。

「北野まきば町内会」の高齢化率は32.8%で、全道平均よりも7.1ポイントも高くなっており、町内会役員の平均年齢も58歳と高く、町内会長は役員の若返り策として、幼い頃から行事に熱心に参加していた飯島さんに役員の就任を依頼したのだそうです（4月29日付北海道新聞）。

いずこの町内会においても、町内会役員のなり手不足と高齢化という問題は、共通する悩みといえます。こうした中、町内会の役員に10代の高校生が就任するというニュースは、新鮮な驚きと共に、「なかなかやるなー」という感想を持ちました。

高校生ともなると町内会活動には見向きもしないだろうと考えがちですが、そこをあえて町内の役員に据えようという発想は素晴らしいと思います。大した事は出来ないのではないかと、名前だけといった懸念があったかも知れませんが、それでも高校生を役員にしようというのは、それだけ事態が深刻だということでもあります。

一方、飯島さんは、町内会の活動には以前から参加していたという事ですから、みんなと何かをやるという事に対しては抵抗感が少ないのかも知れません。それでも、大人に交じって町内会の役員を引き受けようという彼女の積極的な意思に対しては、拍手を贈りたいと思います。高校生の年代だと、町内会の役員なんて「ダセー」とか、「面倒くさそー」の一言で片づけられても仕方のないところですからね。

高校生が町内会の役員になるとニュースは、若い人たちが自分達の住んでいる街に目を向けるきっかけを与えてくれたのではないかと思います。

一方、町内会活動に余り関心のなかった住人にとっても、高校生が役員になる事で町内活動に目が向くようになりますし、何と云っても、子ども達が企画し頑張っている姿を見たら、誰しも応援したくなると思います。

さて、町内役員となった飯島さんは、早速カレーパーティーを企画し、7月6日、地区内の若葉公園で開催したところ、普段100以上集まる事は稀といわれている

中、約200人が集まって、交流を深め、大成功だったそうです。

今回のカレーパーティーは、飯島さんが「登下校の見守り等でお世話になっている町内会の方々に子ども達からお礼をしたい」と計画したとの事ですが、なかなか心憎い演出です。また、高校生の企画ですから、参加した子ども達には「自分達が主役」感があり、参加した住民にも「子ども達からごちそうになった」感がありますから、巧まずして世代間の交流が深まる機会にもなったようです。

10代の町内会役員の誕生は、これ迄聞いた事ありませんが、従来の町内会活動に新風を吹き込んだことは間違いありません。

今後、高校生の諸君が、全道各地の町内会で役員として積極的に活動に参画し、地域の活性化の為に大いに活躍してくれる事を期待しています。(塾頭:吉田 洋一)